

地下帝国の 虜囚

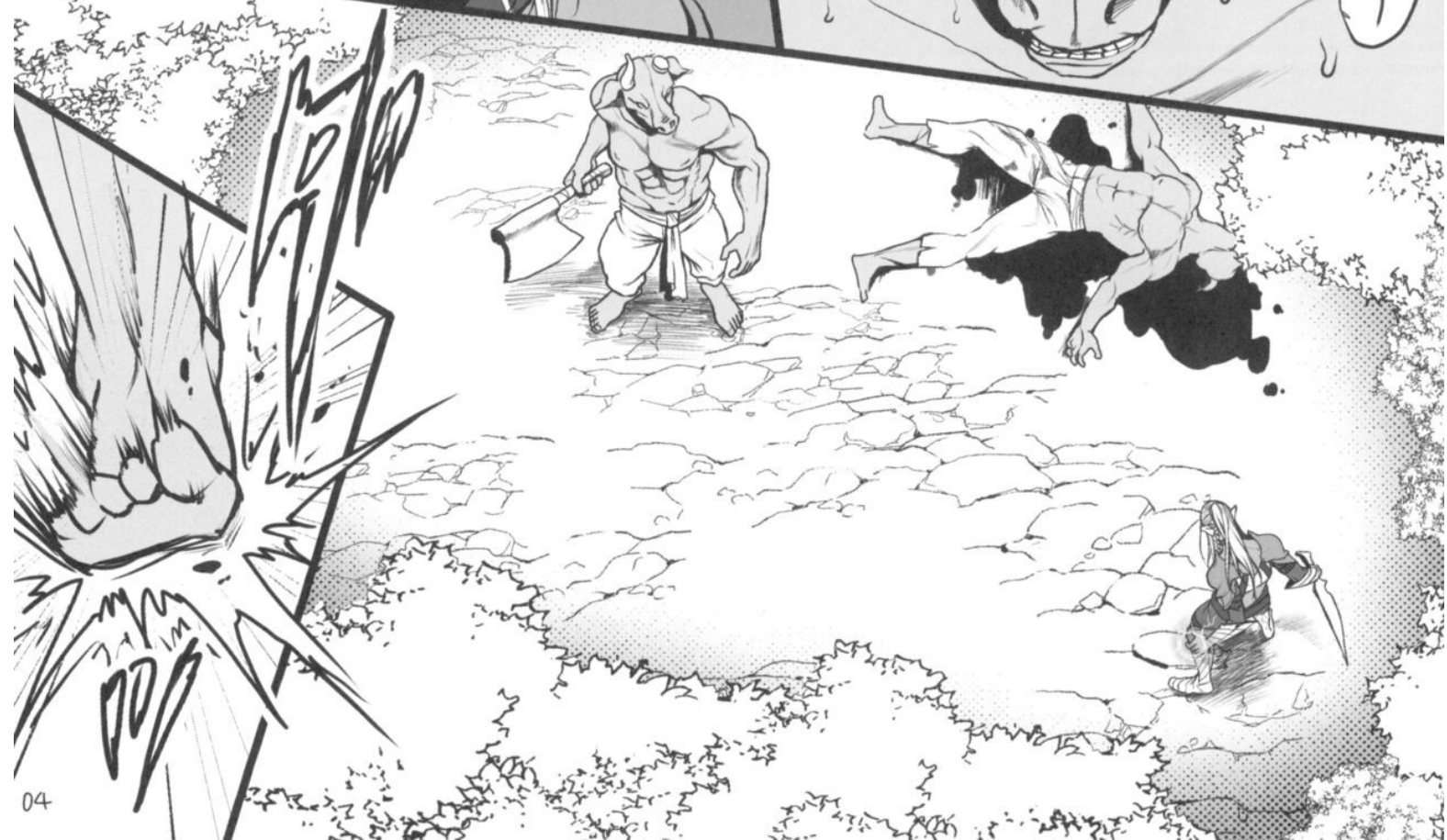


For Adults













はいコレ
ミノタウロスの角2本

ありがとう
グラッシー

いつも仕事が早くて
本当に助かるわ

はい御礼

もう一つ頼みたいことが
あるのだけど...

今度 南西の地底に自生する
吸血草を採取してきて
くれないかしら？
足場の悪い所なのだけど

おやすい御用！

帰るか…

私はグラッセル
フリーランスの
便利屋だ

帝国軍魔闘士部隊に
所属していた頃の
ノウハウを活かして
危険地帯の調査から
病院への付き添い
宴会の盛り上げ役まで
なんでもやる。

己の肉体が資本だけど
これがかなり
割のいい職業で

ただいま

今は夫である
イグレリオンと
帝都居住区の
造林街に住んでいる

5日以内に行ってくる
常連さん割引しとくから

これ薬草
ついでに取ってきた

ありがとう

あっ
メルウェルダ州
出身ね

いや、お陰様で予定が
パンパンだ
従軍していた頃より
遥かに稼げるね

そういえば今度
南西の地底での
採取依頼が入ったよ

地底に行くのは
初めてだね

南西…

フェイロール溪谷
から降る
地底空間のことかな

行ったこと
あんの？

ああ、鉱石採取の雑用でね
でもあそこにはいた

君がどこまで降るかは
わからないけどー
ある程度くだると
原始的ではあるが
生活通路が出現するんだ

そこをさらに深く降れば
やつらの生活圏に入るんだが
見た目からは想像できない程に
文明化されていて少し驚いた

地上の生物が余程珍しいのか
しつこく付き纏われて
その時 運良く持っていた
錬金草や食材をあげたら
ようやく解放してくれたよ

はえ…

殺せば
いいのに！



そういうのは一匹
見せしめに火炎爆撃で
燃やせば蹴散らせる

無用な戦闘は
避けるべきだ

相手について
知らないのなら
なおさら分析が必要
なのはわかるだろう

君の行動力には
助けられているけど
もう少し慎重さも
持った方がいい

へいへい



地質学者である夫の
イグレリオンとは
護衛の仕事で知り合った
元々、戦闘が嫌いで
走る前に死ぬほど考えて
結局走らない奴

要は私とは真逆。

ようやく
ちゃんと付き合えや

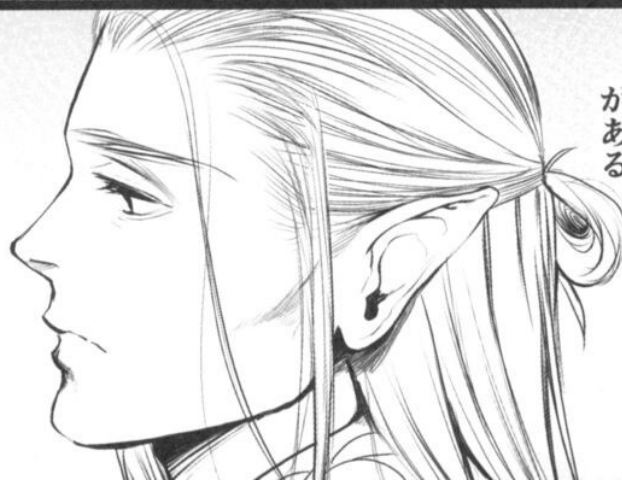
わかりました……
(正い……)

私はかれのその知性に
惚れたんだけどね



ただ なんとなくか
腰が重すぎて
慎重が過ぎるくらい
がある

尻にコケが
生えないか
心配だ。



そういうわけで
何か日常生活を送る上で
あなたに困ったことはありませんか？

例えば「目当てのものが近所に売られていない」
「近所をうろつく獰猛な肉食獣に困っている」
「地中の地雷符呪品の処理」
「あの女とあの男の仲を引き裂いて欲しい」
「レンタル友達が欲しい」……

基本的に刑法に触れないことと
スピリチュアルなお悩みや
性的関係を持つなどでもない限りは
大概なんにでも対応できるので
お気軽に相談してね♥
常連さん割引実施中★

あつ通信の術式に当てはめる暗号はこの紙に
書かれている通りです

グラッシーはいつでも貴方のお困りごとに
全力で寄り添います♥

もちろん一時雇用の傭兵の仕事も
承っているので
お宅の必要装備さえ支給してくれれば
全力で最前線で戦います♥

貴方のご連絡
お待ちしております♥

はあっ……!!







グラッセル 享年の88歳
長いようでかなり短い人生だった

できれば1000歳は迎えたかったけど
これも定命を司る神ガエイアスの
思し召しか

…っていうか何よ ヒソヒソうるさいな
死に際ぐらい静かでいさせてよ



ああ…



……なに？
ここは洞窟？

※私の死後の旅路は
随分と仄暗い場所から
始まるんだなあ……



こりや
死んだわ

※おれらの世界観によるもので死後のハイエルアは永遠の旅に出ると古来より考えられています。
かれらも死後は知り得ぬ未知の世界であるためですが(「無」であると提唱する者も多い)ただ己の生を不死へと導いた世界で数人の死霊術師のみが真の死後の世界を知っています。

あ…れ
感覚がある

私、生きてる？

装備が外されている

どっかのアジトに
捕まっちゃったって
わけ？





ノームだ



と、いうことは



15



まあ随分と行程を
ショートカット
できたもんで...

私は落下して
フェイロールの最深部まで
到達しちゃったわけか

ねえ



この拘束
ほどうて
くれない？

私を拘束したのは
あんたたち？



私 ここに吸血草を採取
しにきたんだけど
道中で足を滑らせたんだ

あんたたちに
敵意があつて
やってきた
わけじゃない

あんたたちが
欲しいのは
なんでもくれてやる
から 解放して
欲しいんだよね

発情期に入った女は
身体が火照るうえに
思考も停止して



言ってしまえば

ねえ

あまり私を
イラつかせないで
くれるかな

さもないと

今ここで集落共々
あんたたちを燃やす
羽目になるけど

それでも
いいわけ？

子孫を残すための
性行為のことしか
考えられなくなる。



ほんとは発情期で
術式は使えないけど

もちろん

ハツタリきかせりや
こいつら程度なら
御せるはずだ

そんな状態で下す判断や行動が
まともなモンじゃないことは
あんたたちの想像に難くない。

おい!

ちよ。

こ・こらっ
お前らっ

とつと仕事を済ませて
こんなところからは
ずらかつてー…

離せよ
何すんだツツ

イ



ナニカ
ハコンデイルヨ

仕方ない
ここは抵抗せずに
こいつらの気がすむまで
我慢するかー……

え・



なんだよもうっ…
女の乳がそんなに珍しいか

あんたらの群れに
メスはいないわけ…!?



あつっ
こらっ…

あ…
そんなとこ
いじるなってっ…

はっ…

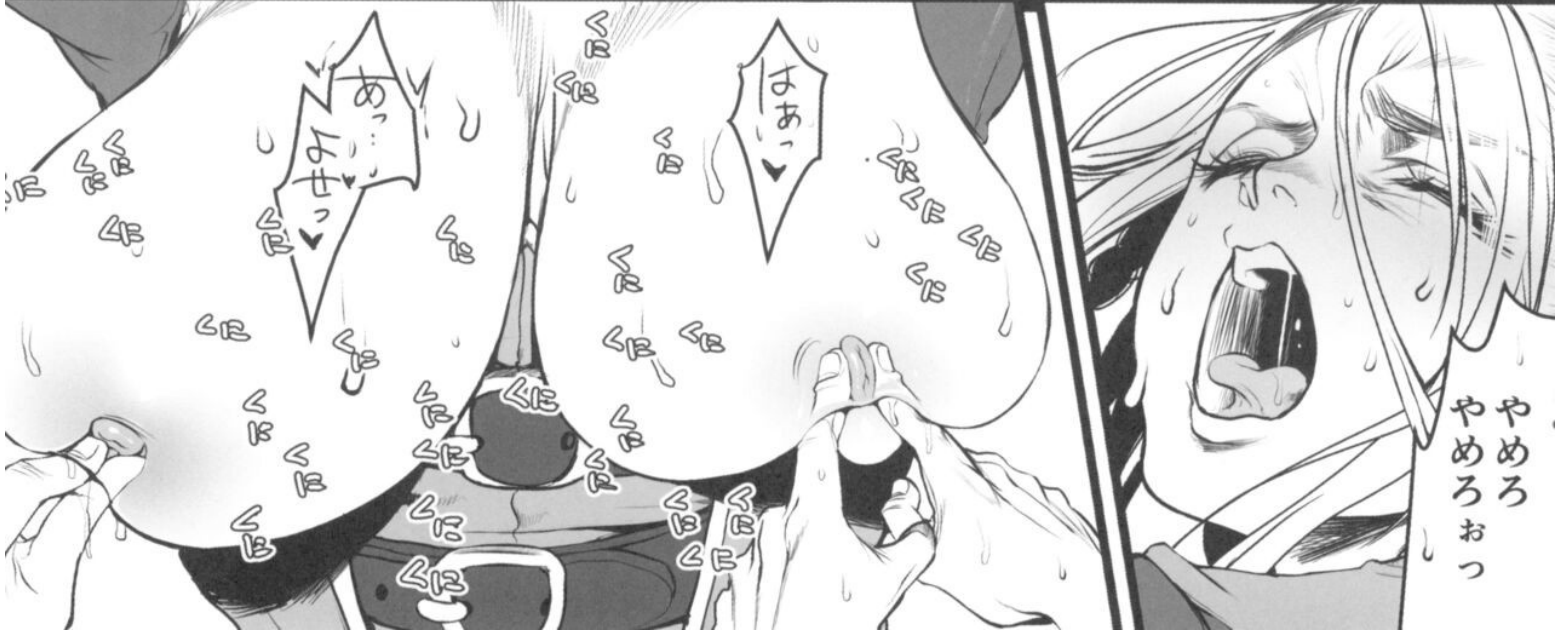
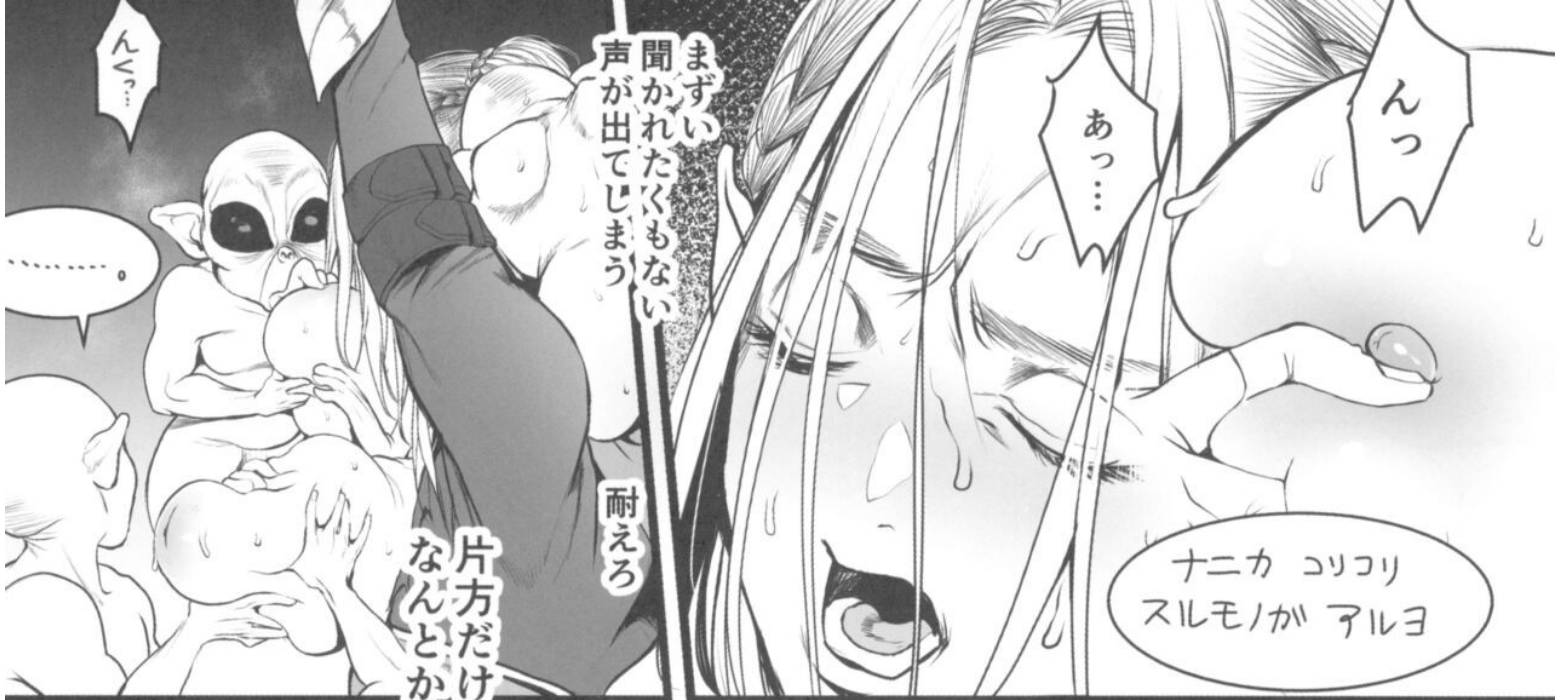


あっ
そこは…

ぬ

んあっ…

うわっ





どこを
嗅いでる

……！
っ……っ

発情期のエルフ種の女は
同族には判別できないほどの
俄かなフェロモンを発する

そして異種生物はその匂いに
つられ……私たちの体液を欲し
交配関係にないにも関わらず
交尾をせがむようになるのだ

あ……

イニオイ
スルヨ

ココ



なぜなら我々の血肉や
こういった体液は
他種生物にとって
とんでもない栄養源なのだから

なぜ発情期の女が外出しては
いけないか
それは 術式が使えない事よりも
まさしくこれが原因なのだ



なんなんだよ
もうっっ……！

くっっそ……！





気色悪い！

誰がてめえと
やるかってんだ

う
おらっ！！

27

これ以上私に
触れたら
殺すから

いいか
てめえら

な
.....



おおおおおお
おおおおおお
おおツツ……!!

ズッ

ツお…

やめろって

やめろ

ヒッ…

あッ

4かう 4かう

よせ…

ココ!



まずい

ずる

今こんなもんで
突かれなんかしたら……



デカい!!

ハイエルフ
同胞と同じくらいの
デカさだ……!!

おほーっ
おほーっ



っで

っほ……

お……あッ……



はて



チビのくせに
私の腰にしがみついて



確かに

しつこかった

31



こんなチンポで
イカされるなんて
一生物の汚点だ



死んでも種づけして
やろうという
執念を垣間見た



そうだ
違うことを
考えればいい

発情期が終わったら
やるべきことを！

まずは先方たちに
謝罪に行って

錬金素材を商業地区の
ジルナル薬局に
売りに行く

それから地上の
帝都郊外のリーパーを
捕まえて売り飛ばして

それからー……

んいつ……！？

やめろやめろ

やめろ

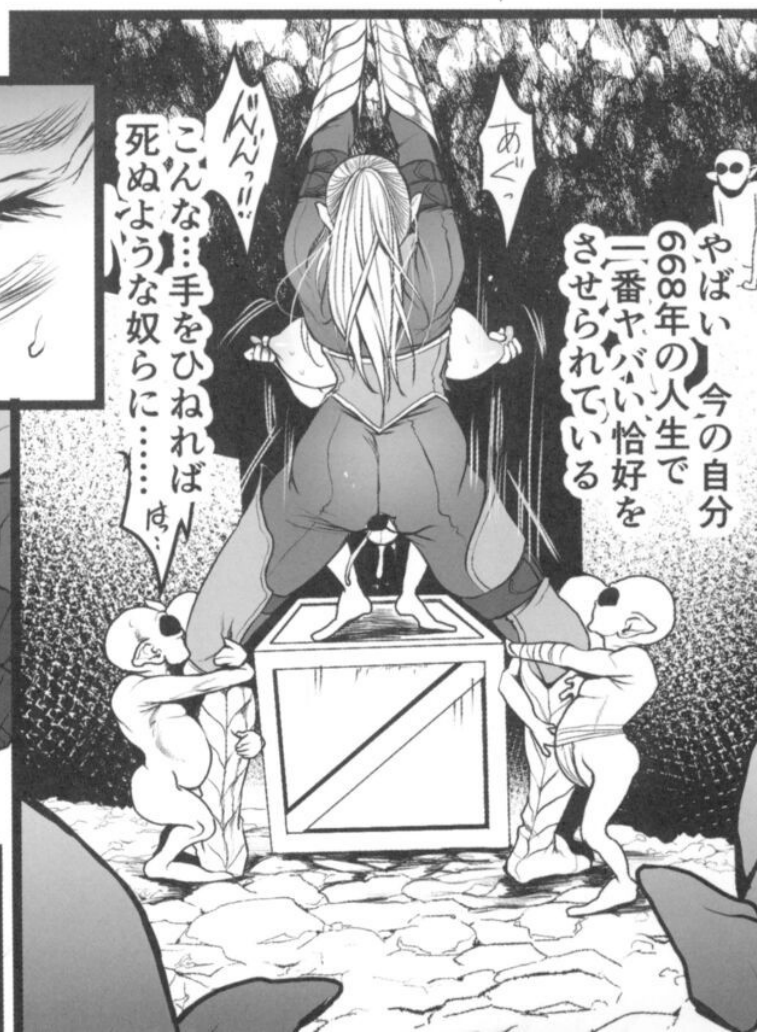
カク

カク

カク

カク









35

これまでの
私の判断が
全て裏目に
出ている……

つたく



発情期つてやつは
よおおっ……!!

はあ

はあ



く……そっつ……

く……うっ……

術式が使えない
にじても……
せめて
ショートソード
だけでも取り返せたら
あとはどうにかなるッツ……

はや……く
一刻も早く

はあ……

はあ……

ここから
ずらからなきや……



く……うっ……

はあ……



はあ……

く……うっ……

つよし……!

もうちよつとで届くっ……!!

先方から
フェイロール溪谷の
地層調査の依頼を
受けていたんだった

フェイロール?
あんな所の調査依頼
なんてありましたっけ?

あった(圧)

今から出かける
本日は戻らずに直帰
するので店を頼めるか
閉店時間通りに閉めて
もらって構わないから

本日分の帳簿だけ
付けておいてくれ

ーいけない
すっかり失念
していた

かしこまり
ました

よくてもない事件に
巻き込まれて
いなければいいが…

胸をつつ
そんなことに
使うんじゃないツツ！

グラッセルの肉体は
無数の小さな妖精によって
代わる代わる犯されました。

彼らはかの女の性器や乳房、
口腔にとどまらず
少しでも使えるところが
あるならば執拗に責め立て

そしてそのたびに分泌される
かの女の唾液・汗・愛液

――あらゆる箇所の
分泌液を執拗に舐めまわしては
吸い取ってゆきました。

発情期の身体でどうにかなる
わけもなく――



理解してやがる

普段陥没していて
外気に触れてないせいで

乳首が死ぬほど
刺激に弱いつてことおツツ...

よ・よせえ
えええつつ...

あッツ
あ♡
あッツツ

こ...れつつ
3点同時責めッツツツ

あああ♡
あ♡
あ♡

ダメだ
気持ち良すぎる

あ.

はっ

ちやう~

あああああ

あ♡

それ以上ツツ
突くなあつ

イクっ♡♡

イクからあああ
ツツ♡♡♡

アツツ♡
もうっ♡

おっ♡
ふっ♡
うっ♡

おっ♡おっ♡おっ♡
おっ♡おっ♡おっ♡
おっ♡おっ♡おっ♡

お♡



ココニモ ナニカ
入るかためしミヨウ

おいっ
いきなり何する！

元に戻せ
この野郎
聞いてんのかっ！

ミテミテ
こ

さ、きから
ヒクヒク シテル

え……？

……

42

あ……あツツ……！？

にゅ

お……ツツ……！？

う

づ

んぐツツ……

ぬ ぶっ！！

違うだろそこは

ちよっつ

ちよん

ちよん

おいおいおい
おいおいおい
どこ触ってる
そこは性器じゃ
ないぞ









おいおいおいおい
もう勘弁してく

水

おごっ
くるじい
よせえ

おぞ

子宮がちゃんぽに
押し潰される時に

ずる

る



こんなの
この世の感覚
じゃない

イグ

ま・まっへ

やばいさつきから
イクの止まらん

なんっ…て連携感覚だ

んお

イク

イク

おほ

やばい

クセになる
これ確実に
クセになる!!

もう普通のセックスじゃ
満足できない身体に
されてしまう!!

こんなクソどもにいい
いいいッッッッッ

ま...さか
この...感じは...

お・おい
手を抜け
今すぐ抜け!

おいおいマジか

漏らしそうなんだ早くッッ
頼むから抜いてくれ
はやくうつつ!!

バリ

ゴ...

だめだ
夢中で聞いちゃいない!

くっく

くっく

くっく



はやぐつ

ダメだ
出る
ツツツ!!

じゃないと
わ・
わらひつつ.....

とめろ
止めてくれ

48

おほおほおほ

おほおほおほ



オマエ カエサナイ

ツツツ……

クサイ ウソコだ

ぐっ……

ふ……

くさい くさい

オマエはもう
ワレワレのドレイだ

あ……

み・見るな
さっきのは……
私の意思じゃ……
なくて……

ちが……
違うんだ

その後——

ぐわんぐわん

おほろろ

はあう

はち

あう……
はああう

あう





それえええッッッ

その調子で
掘り続けてええっ

あ

ほろろ

もつどつ

ほろろ

ぬ

ぬほろ

ほろろ

ぽん

あ……

あ……
あああああッッ……!

……でッ……

なんでッ……
さっきからクソみたいな
寸止めでんだよオオ……!
そういうの
もういい……から……

は……

とっとなと続きを
しろよッッ……

ソウダ!!
フクジュウシロ!

オマエ もう
ワレワレの所有物
ココでドレイとしての
フクジュウ宣言ヲシロ!

4カエ!



おね…がい…
します……

…しま…

…す……

どうか…これ以上…
じらさないで…
ください……

の・ノーム様の…
ちんぽで…

私は

わ・わだじの
けつ穴…ツツ……

けつ穴もま〇こも…
何もかもおツツツ……

死ぬまで…滅茶苦茶に
しでくださいいいツツツ……

膝を屈じた。



矜持とか
プライドだとか

もう

ふんぞりかた……

ちゅるるるるるるるるるる









おらっ
次!!

誰かいねえのか
次はどいつが
私の穴をほじるんだ?

早くしろ
役立たずの
ウスノロども

あまりにも
夥しい数の
ノームに
陵辱され
続けた事

こっちは発情期で疼いてんだ
誰でもいいからとっとと
ぶち込めよ!!!

グラッセルの中の
何かが切れて
しまいました。

あーもう!
あんたでいいわ

あゝコレコレ
こいつらチンポの
具合だけはいいわ

ほらっ早く私のま○こで
硬さを取り戻すんだよ
ボケナス!

かの女はその場にいた
妖精達を次々と陵辱しては

まるで満足することもなく
元気な個体を探し回り
始めました。

ああ...いいつつ

これまで一体こいつらを何匹...
いや何十匹...違う...
何百匹相手にした?

あゝゝゝ
こいつらデイルドに
すんのマジで最高

あゝそこ
いいっ
ポルチオに
当たってんじゃん

ああ
イク

肉デイルドで
イグツツツ



毎日チンポ貪り放題の
永久機関の完成じゃん??

一回搾り取っても
無数にいる
他のチビどもを相手に
している間に
どうせ回復する

発情期間。
こいつらの
住处に住んどけば

そんな
がつつくなよ

まとめて相手♡
してやるからよおっ♡

これってもしかして最高???

はああああッ
最高ッッッ

もうここで暮らすのもアリか?

こんな下品な腰使いっつ
イグレリオンにも
してやったことないわっつ

イグレリオン……



……ね……

ごめんね
イグレリオンん
んつつつ!!

ズ

わっ

舐め腐ってたこんな奴らに
骨の髄までメチャクチャに
されてええつつ

クソ生物のくせに
チンポだけは無駄に
立派なせいで

こんな下品な
クソ女でええええ
ええええええ
つつつ!!

わらひいいつつ

腰がツツぜんぜん止まらない
んだよおおおおおとおお
おおおおおつつつ!!

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

あ?



だがらああっ
おねがiiiiいっ

はやぐ
たずげにぎでえええっ

じゃないと
わらひ...

ム
ニッ

おんっ

わらひっ
一生こいつらのチンポ
無しじゃ生きれなくなりゅ
うううっ

こいつらにッ

こいつらに
人生何もかも
うばわれちゃう
からああああッ

あーッ
だめ、もう、イグ、
いつちゃう

今度こそイギ死ぬ!!







最悪だ

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

おい……
おまえら……

ご覧の通り
私は今の今まで
理性を保ち続けた！

残念だったな……
お前らに一度……服従したように
見せたのは……このクソみたいな
戦いを終わらせるためだった

だが、
……
お前らのクソちんぽに心底
ヨガってしまったのもまた事実だ
下等生物の割になかなか良かったぞ

ーそこで私に提案がある

この期に及んで
まだ私の理性とメンタルは
無駄に強靱で壊れない……



引き分けと
しようじゃないか？

いい提案だろう？

最後に お前らの手で
わたしの腹の中のモンを
全てひり出させてー

ああ 自分という
生き物がムカつく

憎い



それでいい……

そうだ



Yo

Zo

Zo

75



いいな

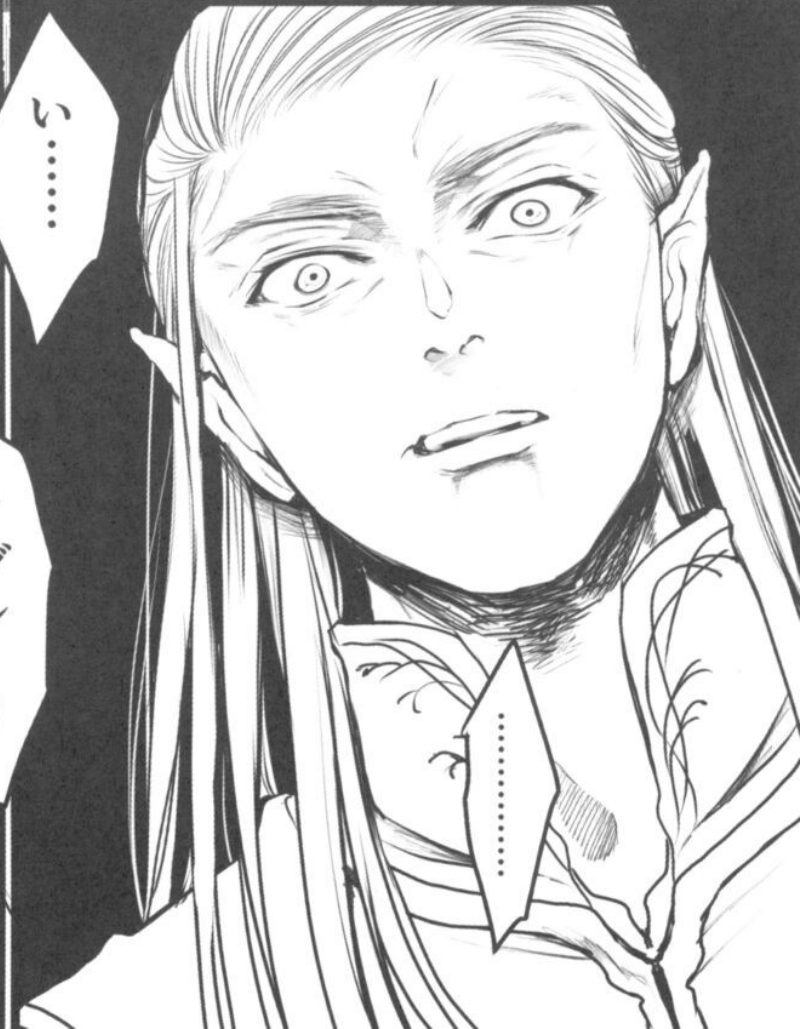
やるからには
ありったけの力で
一斉にぶつけろ

そして
今度こそ



早くこの精神的
拷問を
終わらせてくれ

…グラッシー
…?



お前ら
ちよつと待……





人生
終わった...

あ.....

びちゃ

びしょびしょ
おまのま
おまのま

びしょびしょ
おまのま
おまのま

あ.....
あ.....
あ.....

お...っほ...

おおおおおお
ああああああ
おおとおお...

う.....



う.....
う.....
う.....

うああ
あ.....
あ.....

びしょ

びしょ

ごべ…ごべん…
イグレリオ…

えぐ…

紙めてかかってたら… ひく
は・発情期が来ちゃって…

めちやくちやに犯されて…
こんな…クソちゃんぽで
死ぬほどアクメして…

わらひ… えぐ…
あ・あんたの忠告…
完全に無視して…

えぐ…
七ク…

おまけにけつ穴まで
ほじられて
あんたの前で
う・うんこまで
漏らして…

ひく

も・もうわらひ…
あんたに一生…
顔向けできない…

おねがい…ころして…
このクソ女を

あんたの手で ヒック
死なせてえええっ…

ひく

えぐ…

わかった
もういい

何も見なかった
ことにするよ

だから

おやすみ
グラッシー



……あれ……
イグレリオン？

起きたか

えっと
私 なんて
あんたにおぶ
さってんの……？
私仕事に行った
はずじゃ……？

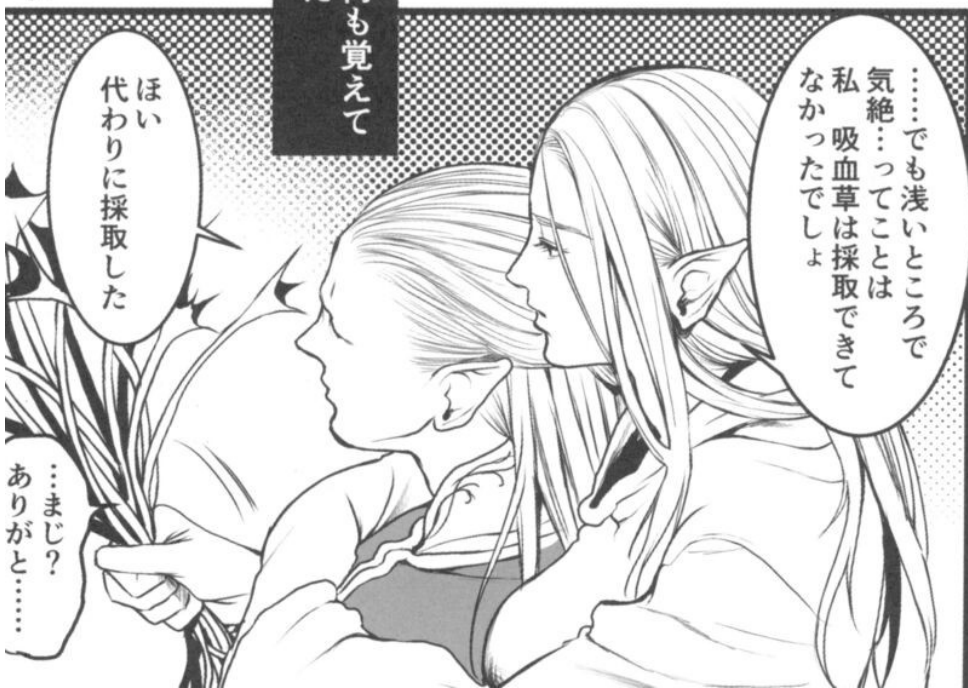


フェイロール溪谷の
浅い谷のところで
気絶してたんだ

足でも滑らせ
たんじゃないかな

え！？
じゃああんたが
助けてくれた
ってわけ！？

かの女は何も覚えて
いなかった



……でも浅いところで
気絶……ってことは
私 吸血草は採取できて
なかったでしょ

ほい
代わりに採取した

……まじ？
ありがと……



ん……

ん……

結局 今回はあんたに全部
助けてもらったってわけね

報酬あんたに
あげるわ

私は

別にいいよ

己の
能力の誇示が
好きではない

その必要性を
感じないからだ

オイ
ソノモ
オイテイク

だがー

ソノモは
自分タチのモノだ

ソウダソウダ
オイテいかな
いのなら

オマエのコトも
コロシテヤル

先日 かの女が
言っていたように

今からかの女に
指一本でも触れてみる

お前ら
一族郎党
根絶やしに
してやる

いいな

見せしめは
時として必要
なのかもしれない

その後

発情期も過ぎ
またいつも通りの
日常が戻ってきた

あの記憶消去の
幻惑術式は
私が解呪しない限り
効力を維持し続けるため

グラッシーは
あの時あったことを
何も思い出すことなく
日々を過ごした。



— 十年後から —



私は
かの女が あの時
いったいあいつらに
何を仕込まれた
のかはわからない



一つ確かに
言えることは

……ねえ
イグレリオン

発情期に入ってから
どういうわけか
尻が疼いて
仕方ないんだよねえ……

ちょっと理由は
わかんない
んだけどさ……

しかし

83

今までそんな趣味
なかったのに

い……今からちょっと……
試してみる気ない??

肉体に刻み込まれた
感覚に関しては

どうやらそのまま
残り続けるらしい
ということだ……

ええ……
(困惑)

た……ぬ
ENDE.

◆幻惑術について◆

かれらの魔術のカテゴリーは大きく分けて破壊・召喚・治癒・変性そして幻惑に分かれます。
幻惑術には一時的に「相手を魅了する」「相手の敵対心を解く」といった便利なものから
「相手を憤慨させる」「かけられたもの同士を殺し合わせる」といった非常に危険な術式も存在します。

つまり邪魔な相手をわざと憤慨させ、攻撃させたところを正当防衛で殺害できるという使い方もできてしまうために、
フォルフェーズ帝国では幻惑術のみだりな使用に関する刑法が多数定められています。

とはいえ、幻惑術は概して符呪する側が符呪対象より知力が優れている場合にのみ有効に作用します。
なので誰にも彼にでもいたずらに符呪できるわけではありません。

また、このような高度な幻惑術式を理解するには相当な知力を要するため、誰しもおいそれと
使用できるものではありません。

そもそもハイエルフ自体が非常に賢く思慮深い生物であるため、みだりに使用される事も
基本的にはありません。

ちなみに作中でイグレリオンがノーム達に
かけた術式は「動作停止」、
そしてグラッセルには「記憶消去」です。

陵辱されたグラッセルを見たかれは
ノーム達を全滅するまで殺し合わせるように
仕向けることもできましたが、あの後
どうしたかは不明です。

さて、この幻惑術式の犠牲になりやすい
のが子どもたちです。

かれらまだ高等術式を理解できずに
悪い大人の餌食になることが稀にあるため、
かれらの親は幻惑避けの符呪を施した
Ⅱエンチャントのアクセサリや、
衣服そのものに符呪を施して子供たちを
保護しています。

なぜハイエルフがもっとも地力の
高い生物か？

それはかれら自身が生まれつき
持つポテンシャル以前に、
意図せぬ敵対者の幻惑術式から
身を守る為に賢くあらねばならない
義務を背負っているからでもあります。



ダークセデューサーという長編(一話完結)漫画を描いている最中です。

ものすごく簡単にあらすじを説明すると、

建国から400年続く大国アルドラン王国の現王・アルトゥールに嫁いだヒロインのサフィラは特別な力を持つ不老長寿の神族の出身で、彼女独自の持つ予知夢の能力によって王と国政を支えていました。

そんな折、魔族(およびエルフ)が支配する西方の小国・シャレーの東方遠征により西側の国土が次々と侵攻されたことでアルトゥールはそれを食い止めるべくシャレー軍の大將であるガレオン王と対峙します。

しかし、

圧倒的に兵士の数で劣るはずのシャレー軍の優れた戦術により蹂躞される自国軍を目の当たりにし、死を直感したアルトゥール王は戦場から逃げ出してしまう。

ガレオン王はここでアルドラン王都に攻め入ることはせず、休戦協定の条件を提示しました。

それは、アルドラン王妃・サフィラを1年間人質としてシャレーに引き渡すことでした。

この絵は、王妃サフィラがガレオン王の腹心であるルーディエルに調教されているさま。

◆ガレオン(魔族)
シャレー王国の第3王子だったが
叔父と兄二人を謀殺し自らが王位に
就いた。
全てはアルドランを滅ぼすために！

サフィラの神族の力を欲している。

抵抗する国や街は徹底的に叩き潰し
見せしめに奴隷として売り払うことも
厭わない性格のため
人間からすれば「魔王」であり
「暴君」と呼ばれるようになる。

(「魔族」とは人間からの呼称にすぎず、
正しくは神族とエルフの混血を指す)



86



◆サフィラ(神族)

神族で草原の民。

元来は自由を愛する天真爛漫な性格だったが
嫁いでは「れでいー」になるため
滅私奉公し、アルドランの民のために
最大限尽くす日々。

実現してしまう予知夢を見る能力を持つため
その力で国のトラブルを防いできた。

とてつもない忍耐力の持ち主。

◆アルトゥール

アルドラン王国の国王だが、自身に王としての
能力が欠如していることを自覚している。
いつしかサフィラに引け目を感じ、愛人を
囲うようになった。

かつて、他国の姫君を押し除け
草原を駆け回るサフィラに猛アタックし
神族とのコネクションを得た。



Arthur

ふたん着



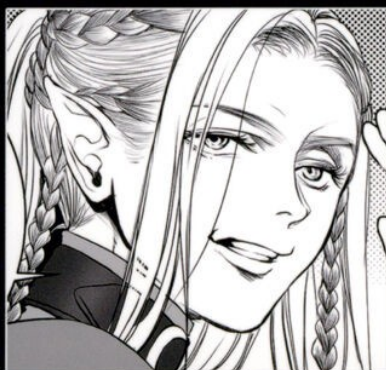
Crown

◆ガレオン軍の歩兵アーマー(仮)
今回エルフは侵略側として描かれるため
それにはデザインがエレガントすぎるので
加筆修正の必要あり。

Infantry of Galleon



グラッセル
Glassell



ハイエルフ・668歳
帝国州メルウェルダ出身

550歳ごろまで帝国陸軍
魔闘士部隊に従軍しており
退役後はその経験を活かして
便利屋を営んでいます。

恐怖を感じるバロメータが
壊れており、いかなる危険も
厭わず物おじしない性格
ハイエルフには珍しい
所謂オラオラ系。

退役の主な原因は、発情期を抑制する
麻痺術式を受けることで生じる
肉体的負荷を許容できなかったため。
(感覚麻痺の術式は、現時点の研究段階
では生殖機能を破壊するリスクを
太いに孕んでいるため)

イグレリオン
Eglerion



ハイエルフ・680歳前後
帝国州スリンダルヒース出身

グラッセルの夫で地質学者。
グラッセルとは対照的に
非常に思慮深い性格で
地質調査の際にかの女に
護衛を依頼したことが
きっかけで知り合いました。

かの女の行動力に感謝と
信頼を置いている一方で、
生き急ぎ過ぎな面に
懸念を抱いています。

いつも描いているエルフ様夫妻の
夫とは帝都大学時代の学友で、
拙作「エルフ様 騙される」で
ウッドエルフ兄弟を解雇したもの
かれだったりします。

ノーム達
Gnomes



地底に原始的ながら
生活圏を築いている妖精
の一種。

暗闇で生きているためか
まるで深海魚のように
目がぎょろぎょろ
しています。

基本的に自給自足ですが
まれに間違えて足を踏み入れた
動物を襲って解体して
食べることがあり、
地上の幾らかの動物の
肉の味を知っているようです。

(当たり前ですがエルフ種が
その犠牲になったことは
ありません)

◆この話を描こうと思ったきっかけとかアイデアが思い浮かんだのは
以前ドイツに中期滞在していた時に「The Wrong Turn」というスプラッタ映画を観たことが発端です。
銃火器を当てても全然死なないげきつよ奇形小人三兄弟が、町の人間たちを次々と残虐な方法で殺害
していくという内容に色々と衝撃を受けました。
元々異種の体格差が好きなので、なんか小人と女体のエロが描きたいな〜という気分になり。

この数年、メンタル不調等で思うように原稿に向き合えませんでした。数年ぶりにきちんと一話で
完結する漫画を完成させられました。なんか今年に入って全てが絶好調です。
1ヶ月で約60ページ作画をしたので画面の作画ミスや陰影付けができておりませんが
今後たくさん新作や途中で止めていた作品を完成して発表していけそうです。
頑張ります。

Flieger

発行日:2023年-5月5日 9月27日(第2版)

<http://whitecross.sakura.ne.jp/>

eririn810@gmail.com

Twitter→@Flieger39207963

印刷: 関西美術印刷 御中

- ◆当書籍の未成年の購入および譲渡を禁ず
- ◆当書籍本文のインターネットへのアップロードおよびそれに準ずる行為を禁ず
当サークルは2016年に発生した違法アップロード事件以降、当方の担当弁護士を通じて
兵庫県警に被害届と告訴状を提出し、対応を進めております。
当サークルは当該行為に非常に厳しい措置を講じておりますことをご理解ください。
- ◆ Uploading the contents of this book on the Internet is prohibited.
I have submitted a damage report to the Hyogo Prefectural Police through
my lawyer for an illegal sharing incident that occurred in 2016.
I'm taking very strict measures against anyone who engages in this practice,
both domestically and internationally.
Thank you for your understanding.

FLIEGER



